

2024(令和6)年度 社会福祉法人札幌親会 事業報告

令和6年度における社会福祉法人札幌親会の事業運営及び会務の運営について、次のとおり報告いたします。

令和6年度においては、新型コロナウイルス感染症の余波はありながらも、感染防止に努め、楽しみのある「暮らし」や多様な「日中活動」に質と量を伴った提供を心がけました。

令和6年度は、3年に一度の報酬改定の年となりました。報酬改定の概要が少しずつ明らかになり、複雑化した各種加算を読み込み、活用することで収入増を図るため、職員の人員配置加算や重度支援加算をしっかりと取り込み、また、6年度から「生活介護事業」の報酬改定では、基本報酬の設定が、日額制からサービス提供時間ごとの変更に伴うサービス提供時間の再検討、利用定員ごとから10名ごとに基本報酬が設定できるようになった結果、給付費収入は増収となり、前年度に引き続き堅調な経営状況となりました。

これまで、地域生活を支える場として事業を行ってきたグループホームは、拠点ごとにバックアップをしている施設・事業所の管理者が、グループホームの管理者を兼務してきました。しかし、令和5年度に起きた入居者の体調の急な変化に対して、支援者からの「報・連・相」が、管理者には十分に届きませんでした。

この反省を踏まえ、令和6年度は、市内に所在する5ヶ所の地域支援センターに専任の管理者を配置して、事業所の運営はもとより、入居者の健康管理、暮らし場で起きる様々な事態に速やかに対応できるよう責任体制の明確化と意思決定の迅速化を図る仕組みを整えました。今後、支援の質を一層高めてまいります。

設備整備の面では、3ヶ年計画でグループホームの各居室等にエアコンを設置する事業も最終年を迎え、未整備であった「あじさい」「ミモザ」「ウィズ」の3ホームにエアコンを設置し、暮らしの場の環境改善に努めるとともに、入居者にとって安心安全な暮らしが提供できるよう一部ながら見守りカメラ（記録カメラ）の導入も行いました。

昨今の福祉現場での人手不足から、とりわけ暮らしの場を支える「入所施設」「グループホーム」での夜勤勤務に従事するマンパワー不足も深刻さを増してきています。このため、札幌市では、国庫・札幌市の「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業補助金」を活用してICT（情報伝達機器～「aams」）を導入しました。

利用者の急な体調の変化や夜間の睡眠の状況をリアルタイムに通知することにより、速やかな対応が可能になり、夜勤職員の精神的・体力的な負担軽減にもつながり、機器をととしての情報の共有化から暮らしの支援の質を高めることが期待されます。

しかし、機器に頼りすぎることなく、日頃から身近にいる支援者の目視による確認が大事なことはいうまでもありません。

法人が初めて運営を始めた「札幌市」は、建物の老朽化への対応と完全個室化を図るため、令和8年度の移転改築に向けて「札幌市移転改築準備委員会」を立ち上げました。近年、個室化に取り組んだ施設や加齢化により身体機能が低下した利用者が暮らしやすい生活環境を整えるため、介護的な機能を備えた施設も見学し、移転改築に必要なソフト面・ハード面からの検討を行い、移転改築工事の基本プランを作成する設計業者を2社による

プロポーザル方式によりプランを選定した結果、基本設計業務を締結し、本格的に「移転改築工事」の着手に向けて準備を始めました。

令和7年度においても、組織のガバナンスの強化と社会福祉法人としての法令順守に努め、それぞれの施設・事業所が、利用者の人権・誇りを大切にし、意思決定支援を柱とした一体感のある事業を進めていけるよう法人本部機能の強化に努め、安定感のある健全な経営体を目指します。

【会務の運営】

（１）理事会の開催状況

第1回理事会（通算第232回）

- ①日 時 令和6年6月7日（金）午後5時～
- ②場 所 菊水ワークセンター 3F 会議室
- ③審議事項 議案第1号 令和5年度事業報告について
議案第2号 令和5年度決算報告について
議案第3号 社会福祉充実計画の策定について
議案第4号 経理規程の一部改正について
議案第5号 パートタイマー就業規則の一部改正について
議案第6号 個人情報保護規程の前面改正について
議案第7号 つきがた友朋の丘生活事業の定員変更について
議案第8号 定時（第116）回評議員会の提出議案について

第2回理事会（通算第233回）

- ①日 時 令和6年9月13日（金）午後5時～
- ②場 所 菊水ワークセンター 3F 会議室
- ③審議事項 議案第1号 令和6年度補正予算（案）について
議案第2号 賃貸物件（グループホーム3棟・ゆめきた）の購入
に向けての買付申込書の取り交わしについて
議案第3号 ゆめいろの定員変更について

第3回理事会（通算第234回）

- ①日 時 令和6年12月13日（金）午後5時～
- ②場 所 ホテルポールスター札幌 3F 多目的ホール
- ③審議事項 議案第1号 土地・建物の売買契約の締結について
議案第2号 令和6年度上半期の会計の執行状況及び
事業の進捗状況について
議案第3号 地域支援センターほたるの事業縮小について
議案第4号 理事の退任について

第4回理事会（通算第235回）

- ①日 時 令和7年3月21日（金）午後5時～
- ②場 所 菊水ワークセンター 3F 会議室
- ③審議事項 議案第1号 令和6年度補正予算（案）について
議案第2号 令和7年度事業計画（案）について
議案第3号 令和7年度予算（案）について
議案第4号 基本財産の編入及び定款変更について
議案第5号 就業規則等の一部改正について
議案第6号 見守りカメラ運用規程の制定について
議案第7号 札北荘移転改築工事に係る基本設計業者の選定について
議案第8号 つきがた友朋の丘屋上防水改修工事に係る設計業者との
業務委託の締結及び工事施工業者の選定について
議案第9号 地域支援センター（3事業所）の定員変更について
議案第10号 施設長・管理者の人事について
議案第11号 役員賠償責任保険の更新について
議案第12号 理事の補充について
議案第13号 第117回評議員会の議案について

（2）評議員会の開催状況

定時評議員会（通算第116回）

- ①日 時 令和6年6月22日（土）午前10時～
- ②場 所 菊水ワークセンター 3F 会議室
- ③審議事項 議案第1号 令和5年度事業報告について
議案第2号 令和5年度決算承認について
議案第3号 社会福祉充実計画の策定について

第2回評議員会（通算第117回）

- ①日 時 令和7年3月29日（土）午前10時～
- ②場 所 菊水ワークセンター 3F 会議室
- ③審議事項 議案第1号 令和6年度補正予算（案）について
議案第2号 令和7年度事業計画（案）について
議案第3号 令和7年度予算（案）について
議案第4号 基本財産の編入及び定款変更について
議案第5号 理事に選任について

（3）監事監査の実施

- 第1回目 令和6年 5月17日（令和5年度決算経理状況）
- 第2回目 令和6年 8月23日（利用者預かり金の経理・管理状況）

- 第3回目 令和6年11月15日（令和5年度上半期経理状況）
第4回目 令和7年 2月21日（利用者預かり金の経理・管理状況）

（4）養和監査法人による予備監査の実施

- 第1回目 令和6年 5月8日～5月10日（令和5年度決算処理の監査）
第2回目 令和6年 9月10日（固定資産の仕分け登録、他）
第3回目 令和6年12月23日・1月23日（決裁書の査閲）
第4回目 令和7年 2月12日～14日（インターネットによる取引等）

（5）札幌市の監査指導・実地指導

- 令和6年 8月22日 札北荘指導監査/市監査指導室・市障がい福祉課
令和6年10月 4日 社会自立センター業務・財務検査（前期）/市障がい福祉課
令和6年10月21日～23日・10月25日 社会自立センター/監査事務局
令和7年 3月 5日 社会自立センター業務・財務検査（後期）/市障がい福祉課

（6）事業の経営

＜障がい者支援施設の経営・第一種社会福祉事業＞

- （1）札北荘～施設入所支援／定員30名・生活介護／定員55名
（2）つきがた友朋の丘～施設入所支援／定員40名・生活介護／定員50名

＜障がい福祉サービス事業の経営・第二種社会福祉事業＞

- （1）ゆめいろ（生活介護）～定員50名
（2）ゆめくる（生活介護）～定員40名
（3）ゆめきた（生活介護）～定員20名
（4）札幌市社会自立センター（就労継続支援A型）～定員30名
（5）菊水ワークセンター（生活介護）～定員40名
（就労継続支援B型）～定員40名
（6）白石かがやき園（生活介護）～定員50名
白石かがやき園/こもれび（就労継続支援B型）～定員10名

＜短期入所事業の経営＞

- （1）札北荘 利用延日数 333日（定員10名/日）
（2）つきがた友朋の丘 利用延日数 実績なし（定員4名/日）
（3）地域支援センターりら 利用延日数 343日（定員5名/日）

＜共同生活援助の経営＞

- （1）地域支援センターくれあ（3ホーム）～定員30名
（2）地域支援センターうらら（3ホーム）～定員25名

- (3) 地域支援センターのんの (2 ホーム) ~定員 20 名
- (4) 地域支援センターほたる (1 ホーム) ~定員 7 名
- (5) 地域支援センターすてら (2 ホーム) ~定員 20 名
- (6) 地域支援センターえがお (4 ホーム) ~定員 32 名

<居宅介護事業所の経営>

- (1) ライフサポートあんりー (居宅介護・行動援護・重度訪問介護)

<相談支援事業の経営>

- (1) 相談室あいりす (特定相談支援・一般相談支援)

<有償運送事業の実施>

- (1) ライフサポートあんりー 令和2年11月30日より休止中

<市町村事業の実施>

- (1) 移動支援事業 ライフサポートあんりー 令和2年11月30日より休止中

(2) 日中一時支援事業	札北荘	利用延日数	35日
	ゆめくる	利用延日数	実績なし
	つきがた友朋の丘	利用延日数	実績なし
	菊水ワークセンター	利用延日数	実績なし
	白石かがやき園	利用延日数	実績なし

(7) 補助の受領

- ① 令和6年度札幌市障害者総合支援事業費補助金 (障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業)

○補助金額 1,571,000円 (総事業費2,097,150円)

【申請理由】

札北荘は、施設開設38年が経過し、入所利用者の高齢化、重度化が進む中、施設の構造自体がバリアフリーとはなっておらず、身体能力の低下による暮らしにくさと支援をする側でも「介護」しづらい状態が続いてきています。

また、昨今の人材確保が困難な状況から、生活場面ではマンパワー不足も否めないことから、ICT (情報伝達機器) を活用することにより、職員間の連絡を円滑にし、利用者の体調の変化などの情報共有が改善され、緊急時にも速やかに対応を図ることが期待できます。

札北荘では、夜間の就寝時において離床して徘徊するケースもあり、対象の利用者にはセンサーマットを設置してきましたが、センサーが反応してから職員が動い

てもタイムラグがあり、転倒による事故、ケガもおきています。このため、今回、**a a m s**（アアムス～安心・安全・見守り・システム）を導入し、ベッドのマットレスの下に**a a m s**を設置することで、心拍・呼吸・体の動き・睡眠状態を感知してリアルタイムに通知する介護ロボットを導入し、数多い巡回の軽減を図り、夜勤職員の精神的、体力的な負担軽減と速やかな対応を図ることにより、よりよい支援へと支援の質を高めることが期待できます。

- | | |
|--------------------|-----------|
| ②スズメバチ等駆除費補助金（月形町） | 9, 215円 |
| ③物価高騰支援事業補助金（月形町） | 288, 000円 |

2024（令和6）年度事業報告 札北荘

（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

生活環境の維持・職員連携強化・ICT導入・社会資源活用を掲げ、利用者さまの暮らしを守る入所施設を目指し進めてまいりました。また、利用者さま一人ひとりの個性や誇りを大切にしたい意思決定支援の支援方法を共有し、人としての「こころ」に対する支援の重要性を求めました。経験年数の浅い職員集団ではありますが、個々の職員へ当事者意識と責任を提示し、実行から結果・実績を積み上げることで個人・組織力を高める岐点となりました。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜施設入所支援＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1.0	
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	
生活支援員	33	28.5	0.5	2.8		31.8	17.6	
看護職員	1	1.0				1.0	0.1	
医師	1			0.1		0.1	0.1	
管理栄養士	1	1.0				1.0	1.0	
重度支援員	1		0.5			0.5	0.5	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜施設入所支援＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者					2	5	23	30
利用者延数					678	2,046	8,191	平均 29.9

＜生活介護＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者					3	18	34	55
利用者延数					781	4,738	8,843	平均 53.4

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

2名（T.J氏・I.T氏）

（2）契約解除者数

3名（O.Y氏・S.M氏・T.T氏）

5. 具体的な取組みの成果

（1）人として成長できる環境と支援者として目指すべき道を構築する

職員の意識統一を図ることで中堅職員が当事者意識をもち始めたが、利用者様の虐待疑いから札幌市への報告が1件発生。見守りカメラ導入及び権利擁護研修や検討会を定期開催し、職員としての責任、そして人としての尊厳を守る自覚を問うことにより、職員認識が向上につながる。

（2）生活の安心感と心地よい日常を考える

医療との連携（訪問看護）・介護器具導入など、疾病や身体面に合わせた対応や対処を強化。ICT機器の補助的機能の設置も含め、多様化する利用者支援に順応できる環境を進めた。また、意思決定支援や活気のある活動等を組み合わせた支援を行う。

（3）利用者さまの住環境の向上と維持

①生活環境 ②日中活動 ③健康支援の3つを重点に見直し、利用者様の「はたらく」・「楽しむ」・「健康維持」の適切な環境と支援の強化を図る。現状に即した変化や具体的な展開方法の構築・想像力を養えるよう今後も継続する。

(4) 組織の見直しと活性化

情報共有や業務の効率化を図る一方で、連携不足や業務の多忙さによる未実施が散見。情報共有ツール（インカム導入）・グループ構成の見直し・業務細分化等の微調整を図り、有効手段を実施。役職者と現場との連携強化及び個々の職員スキル向上を継続する。

(5) 環境整備・補修工事

施設内外、玄関、床、水回り、機械備品関係など点検を強化。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 権利擁護・虐待防止（小）委員会/身体拘束適正化委員会（毎月開催）

毎月開催。入所会議日の午後に実施。記録の集計より虐待に繋がる事案の有無を確認。身体拘束が3要件に沿って適切に対応されていたかを確認と廃止に向けての検討会議を継続。

権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化研修会を定期的実施。

(2) 感染症対策委員会

3か月に一回開催。インフルエンザ予防接種、健康診断を実施。新任向け研修1回・全職員向け研修1回・全職員向け訓練2回を実施。

(3) 安全管理委員会（毎月開催）

毎月開催。入所会議日の午後に実施。ヒヤリハット、事故報告の集計、分析、対策を検討。検証結果は入所会議等にて適時報告。状況や結果に応じて経過をたどり、根拠に伴った報告の徹底。そして、タイムリーな周知・伝達を徹底した。

(4) 入所会議/リーダー会議（毎月開催）・個別支援会議（随時）

入所会議は第4週目に定期開催。入所棟会議・あとむ会議・リーダー会議は毎月開催。個別支援会議は随時開催し、利用者様の権利・尊厳の重視及びニーズに即した支援から自己実現へつなげる。

7. 研修参加

①外部研修

○施設長セミナー1名 ○相談支援従業者研修2名 ○全国知的障がい関係施設長等会議1名
○3圏域合同フォローアップ研修1名 ○ニューパワー全体セミナー1名 ○救急法セミナー1名
○北海道知的障がい関係支援員研修2名○北海道強度行動障害支援員養成研修1名・行動援護養成研修1名
○障がい者虐待防止研修1名 ○災害対策研修会1名 ○全道知的障がい関係職員研究大会1名
○障害者虐待防止・権利擁護指導者養成講座1名 ○権利擁護セミナー1名
○サービス管理責任者研修（基礎）1名 ○社会福祉士実習指導者講習会2名
○強度行動障害を有する利用者の集中的支援と虐待防止1名
○重度高齢化に対しての取り組み3名 ○障害支援施設部会全国大会2名
○障害者虐待防止権利擁護指導者養成講座1名 ○強度行動障害支援者養成研修2名
○意思決定支援研修会1名 ○応急手当講習5名

②内部研修

○エルダー研修1名 ○新任職員研修会5名 ○メンター研修会4名 ○サビ管交流研修会1名
○新入職員フォローアップ研修会Ⅰ5名 ○権利擁護虐待防止研修会（法人）2名
○感染症対策研修 全職員 ○接遇マナー研修会 全職員 ○現場向け学習会 全職員
○権利擁護虐待防止研修会（事業所）全職員 ○意思決定支援研修会3名
○利用者向け SST 研修全利用者 ○ハラスメント研修 全職員 ○身体拘束適正化研修 全職員 ○救命救急研修 全職員

2024（令和6）年度事業報告 地域支援センター うらら (共同生活援助)

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

コロナ禍から、これまでの日常に戻ってきていますが、グループホームにおいては感染拡大のリスクは依然として高く、感染症対策はこれまで同様に継続しています。コロナやインフルエンザ感染も散発はされましたが、感染拡大までに至らなかったのは、日頃からの対策の効果であったと思われます。外出活動や、利用者様が集う活動も再開し、個別の支援では味わえない多くの皆さんで楽しむ良さも再確認することができました。次年度においても、個別支援の充実を図るとともに、皆さんが集う集団の活動も取り入れ、日々の生活に「楽しみと潤いのある暮らし」の実現を目指していきます。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜共同生活援助＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1		1.0			1.0	1.0	
サービス管理責任者	1		1.0			1.0	1.0	
生活支援員	13	1.0		8.5		9.5	6.2	
世話人	7			4.7		4.7	4.1	
看護職員	1			0.1		0.1	0.1	
夜間支援従事者	11			2.0		2.0	2.0	
重度支援	1				0.1	0.1	0.1	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜共同生活援助＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者	2	0	0	1	4	12	7	26
利用者延数	602	0	0	365	1,120	4,082	602	平均 23.8

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

1名～M・K様（GHすずらん R7.1.26より契約）

（2）契約解除者数

1名～H・W様（GHすずらん R6.11.23契約解除）

5. 具体的な取組みの成果

（1）安心、安全、安定した利用者様支援

利用者様が安心して快適な生活を送る事ができるよう、支援の統一、引き継ぎの徹底などを意識した取り組みとしている。シフト勤務の中での引き継ぎ漏れや確認、連絡のミスもあり、利用者様に不利益、不都合とならないよう継続した取り組みとしていく。

（2）住環境整備の充実

当年度はGHあじさい・ミモザの各居室へクーラーが設置され、夏季は快適な生活を送っていたことができている。また、GHあじさい・ミモザが法人所有の物件となり、これまで以上に環境整備と維持管理が重要となる。必要に応じて経年劣化等の対応を進めている。次年度については外壁及び屋根の塗装を計画している。

（3）日中活動先、バックアップ施設との連携について

（1）同様に引き継ぎや情報共有、確認事項の漏れが見られている。生活と日中活動の連携を密にすることで、利用者様の支援が点ではなく線で繋がる事を意識した取り組みとし継続していく。

(4) 地域連携推進会議設置に向けて

当年度は町内会総会に出席し事業所の認識をしていただくのみの取り組みとなっている。行政からの指針にて関係機関への参画要請等の手続きを進めていく。令和7年度は設置義務となり、年に1回の会議の開催と事業所訪問が必須となるため、年度当初より計画的に進めていく事とする。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 虐待防止・権利擁護・身体拘束適正化小委員会（年12回 毎月実施）

毎月の職員会議において小委員会を実施。記録等から、虐待や身体拘束に繋がりがねない場面を確認し、環境調整や支援について全体で確認を行っている。6月12月にセルフチェックを実施し、本委員会にて報告。本委員会後に当事業所の考察、本委員会の内容を事業所内にて周知をしている。

(2) 感染症対策委員会（年4回 6月・9月・1月・3月）

研修～食中毒の予防について・効果的な手洗いについて～9月

感染症、感染防止について（e-ラーニング）～11月～12月

訓練～嘔吐物の適切な処理方法演習～9月

感染対策マニュアルを利用した行動訓練～1月

(3) 安全管理・防災・災害委員会（年12回 毎月実施）

毎月の職員会議にて事故、ヒヤリハット報告と対策の確認を実施。当年度は事故報告5件、ヒヤリハット報告15件となっている。火災想定2回、災害想定1回の避難訓練を実施。地震対応の見直しから食器棚への突っ張り棒の設置にて転倒防止の対応。

(4) 各定例会議

職員会議、各ホーム会議を月1回定例にて実施。職員会議内にて、虐待防止や感染症、安全管理委員会を実施。各ホーム会議にて、ホーム内の検討・周知の他、個別支援計画作成のための意思決定支援会議を実施。

(5) 研修参加

①外部研修

6月17日・18日	全道施設長セミナー	1名
9月27日	北海道知的障がい関係支援員研修	1名
10月11日	災害対策研修会	1名
11月21日・22日	虐待防止・権利擁護指導者養成講座	1名
1月17日	グループホームスタッフ等研修会	1名
1月30日	虐待防止権利擁護指導者養成講座伝達研修	1名
2月17日・18日	全道施設長研修	1名
2月18日	災害対策研修会	1名

②内部研修

6月28日	権利擁護・虐待防止研修	1名
9月20日	事故発生時対応研修	1名
12月13日	意思決定支援研修	1名
8月17日	権利擁護・虐待防止研修	3名

2024（令和6）年度事業報告 ゆめいろ

（生活介護）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

当年度は、報酬改定に伴いサービス提供時間を延長いたしました。ご利用者、ご家族より好意的に受け入れていただき、サービス提供においてもご利用者の意思を反映する努力を行うとともに、職員が創意工夫を図りご利用者個々に適切な活動を考え、求められる活動提供に努めることができました。しかしながら、個々の職員への負担をかける状況になってしまいました。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜生活介護＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1.0	
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	
生活支援員	25	15.7		3.0	0.5	19.2	18.9	2:1
看護職員	1			0.4		0.4		
重度支援	1				0.5	0.5	0.5	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜生活介護＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者				2	5	16	33	56
利用者延数				556	966	3,994	7,516	平均 48.4

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数…なし

（2）契約解除者数…4名

（SY氏、令和6年5月11日契約解除）、（MN氏、令和6年7月1日契約解除）

（TA氏、令和6年7月24日契約解除）、（TO氏、令和7年3月21日契約解除）

5. 具体的な取組みの成果

（1）適切なサービス提供及び支援力の向上

サービス時間を延長し、ご利用者、ご家族のニーズに近づけることができました。サービス提供時間の適正に務めることはできましたが、日々の業務や支援力を高めるために職員間での会議や打ち合わせ時間を設けることが困難であるとき散見され、土曜日のサービス提供時間を短縮し、会議、打合せを実施している。

（2）委員会・係業務の機能的な運営

決められた業務を上席から指示のもと実行することは可能であるが、個々の職員が業務考え進めることには自信を持つことができず、不安要素が募っている状況が見受けられた。一つ一つの業務を職員がストレスなく向かい合うことができるよう、努めます。

（3）事業所・環境整備

LED照明の交換、エレベーターの部品交換等を適宜実施しております。また、車両、建物などの修繕は適宜実施しております。

（4）新規利用者及び教育実習生の積極的な受け入れ

今年度は新規利用者の受け入れに至ることはできませんでしたが、次年度以降の受け入れに向け、ご家族、学校の見学の要望にはすべてお答えすることができました。現場実習についても、現場の状況を踏まえつつ、真摯に答えていきます。教育実習生については、依頼をいただいた皆さんを受け入れることができおり、次年度もスタンスを変えることなく受け入れを実施し、開かれた事業所を目指します。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

- (1) 権利擁護・虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会 12回(1回/月)
- (2) 感染症対策委員会 3回(5月・7月・1月)
- (3) 安全管理委員会 12回(1回/月)
- (4) 職員会議 12回(1回/月)
- (5) リーダー会議 12回(1回/月)
- (6) 各活動班、各係打合せ・会議 適宜開催
- (7) 研修参加

①外部研修

- 令和6年度北海道知的障がい関係支援員研修(道知的障がい福祉協会) 1名
- 令和6年度災害対策研修会(道知的障がい福祉協会) 1名
- 行動援護従業者養成研修 3名
- 令和6年度全道知的障がい関係者研究大会(道知的障がい福祉協会) 2名
- 施設長・管理者 権利擁護特別研修(道知的障がい福祉協会) 1名
- 令和6年度障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成講座(道知的障がい福祉協会) 1名
- 令和6年度日中活動支援部会職員研修会(道知的障がい福祉協会) 2名

②内部研修

- 事例発表会 ①虐待防止・身体拘束 6/28
②事故発生時の対応(リスクマネジメント) 9/20
③自己決定・意思決定 12/12
- 内部研修 権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化北エリア合同 8/17
- 伝達研修 権利擁護・虐待防止支援者 要請講座 1/18
- 新任研修 感染症対策・権利擁護 4/13
- SST研修 コミュニケーション方法(利用者向け) 10/25
- eラーニング
 - ① 支援者個人で視聴
 - ② 事業所単位で視聴
 - ③ 事例発表会
- 施設見学
 - ・1グループ 札幌市子ども発達支援総合センター ちくたく かしわ学園
 - ・2グループ 社会福祉法人アンビシャス
 - ・3グループ 社会福祉法人あむ
 - ・4グループ 自閉症者地域生活支援センター なないろ
 - ・5グループ 社会福祉法人きずな園

2024（令和6）年度事業報告 地域支援センターえがお （共同生活援助）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

令和6年度は、個別余暇を主とした外出の機会を多く持てるよう、居宅事業所と連携した活動を行ってきましたが、利用者個々の多様性から、別の居宅事業所と新たに契約を結び余暇の充実を図ってきました。全ての利用者が満足できる余暇の提供は難しく、ホーム内で行う余暇にも力を入れ取り組んでいます。職員個々のスキルは向上していると感じますが、協調性や協力しあう意識が空回りしている状況も散見されていました。お互いを思いあって補う意識を持つことが大切であると考えます。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜共同生活援助＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1		1.0			1.0		サビ営兼務
サービス管理責任者	2		1.0		0.1	1.1	1.1	生活支援員兼務
生活支援員	10	1.0		5.7	1.5	8.2	7.6	重度支援含む
世話人	10	1.0		5.5	0.5	7.0	5.5	
夜間支援従事者	13			2.5		2.5		生活支援員/世話人兼務
看護職員	0					0		未配置

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜共同生活援助＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者	1	0	1	3	8	13	6	32
利用者延数	358	0	365	739	3,158	4,768	1,917	平均 31.2

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

0名

（2）契約解除者数

0名

5. 具体的な取り組みの成果

（1）相談支援の強化

個別の相談には勤務している職員が対応し、意思を尊重しながらも共同生活を送る上でのマナーや社会ルールの情報を提供し、快適な生活が送れるよう取り組んできました。支援マニュアルについても変更を常に行い、情報共有が常にできる体制を作っています。

（2）余暇支援の充実

新たに居宅事業所3ヶ所追加し計4ヶ所の事業所を使って個別の余暇外出を行いました。十分な提供が出来ず、職員が対応していき充実を図ってきました。

（3）環境整備システムの構築

生活環境の清掃・保身を計画的に実施していき、床WAX等外部委託をしながらも環境整備に力を入れてきました。ホームの鍵を複数の職員が所持している状況から、ダイヤル式のkeyboxを玄関前に設置、複数の鍵を回収することで紛失の危険性を軽減しています。

（4）洗練された安全管理システムの構築

月々のヒヤリハット・事故が起きた際には直ぐに検証し対策を講じて全体に周知してきました。ヒヤリハットは報告だけに終わらないよう、良い気づきとして全体周知を行っています。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

（1）権利擁護/虐待防止委員会、身体拘束等適正化委員会

コロナで開催出来なかった月もありますが、毎月実施し検証をしています。身体拘束の解除は1名だけでしたが、活発な意見も多く研修を通して意識の向上が見られています。

(2) 苦情解決委員会

近隣住民より1件の苦情がありました。早急に対応し対象となる職員への指導を行っています。

(3) 安全管理委員会

ヒヤリハット事故の集計、避難訓練、災害備蓄品の管理を行い、備蓄食料の期限切れ前に試食会を開催し利用者に食べて頂きました。公用車の管理、点検整備や清掃を行っています。

(4) 感染症対策委員会

4月・6月とコロナウイルス感染があり、換気・清掃・消毒を改めて学ぶ機会として研修を行っています。

(5) 給食委員会

日々の給食を確認し何かあれば都度、連絡・相談を行っています。

(6) 環境整備委員会

住環境の日々の清掃・特別清掃を実施しています。

(7) ハラスメント委員会

ハラスメント研修を行っています。

(8) 余暇支援係

全体、ホーム毎、個別の余暇を企画、実施、調整を行いました。個別余暇の充実を図っています。

(9) 庶務係

半月、月末に締めを行い適正に使用されているかを確認しています。

(10) 研修係

eラーニングを毎月周知し、感想を聞く機会を設けています。

(5) 研修参加

①外部研修

全道施設長セミナー（1名）

北海道知的障がい関係支援員研修（1名）

グループホームスタッフ等研修会（1名）

障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成講座伝達研修（1名）

②内部研修（法人含）

虐待防止・権利擁護研修（全員）

嘔吐物処理について（全員）

虐待防止・権利擁護について（1名）

権利擁護研修（4名）

事故発生時の対応について（1名）

職場におけるハラスメント研修（全員）

感染予防研修（全員）

意思決定支援（1名）

ケーススタディ（2名）

2024（令和6）年度事業報告 ゆめくる

（生活介護事業）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

利用者の日中活動が充実した時間になるよう、アセスメントの時間をより重要視してきました。如何にして彼らの思いや希望を汲み取れるかの時間であったような印象ですが、研修研鑽を重ね実践してきました。これらの事により、職員間の意見交換等活発となり、職員集団としての連携とチームワークの構築にも大きく寄与できました。土台として培った部分を基礎として、彼らの意思を大切に次年度に向けた事業運営と、地域における社会資源としての役割を踏まえ、報告とします。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜生活介護＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1.0	ゆめきた兼務
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	
生活支援員	19	10.0	1.0	4.8		15.8	15.4	
看護職員	1	1.0				1.0	1.0	
重度支援	1		0.1			0.1	0.1	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜生活介護＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者					5	21	17	43
利用者延数					1,432	5,129	3,994	平均 39.2

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

KYさん（R6.4.1～）

（2）契約解除者数

ありません

5. 具体的な取組みの成果

（1）特色のある活動の構築

利用者の方々の状況やニーズを基に、「工夫あるアセスメント」を心掛けて参りました。意思決定支援の時間を共有し丁寧な聞き取りを実施することにより、それぞれがご自分の「取り組みの希望」、「挑戦したい事項」を伝えていただきました。ゆめくるでのベースとなる活動は継続しながらも、利用者の達成感や満足感が得られるようになってきています。

（2）支援力の向上

意思決定のサポートはもちろんのこと、ニーズの把握に努める過程の中で聞き取りの工夫（絵合表示や選択ができるカードの表示等）は活発な議論の中で形となりました。情報の共有を図り、計画書に浸透させることは形になってきたようです。又、職場環境の向上にも努めるとともに不適切な支援の根絶を目指してきました。

（3）地域社会及びご家族に対して

委託の作業を通して社会との繋がりを継続してきました。近隣の公園清掃や袋詰めといった軽作業が主でした。単調な作業の連続でありながらも責任を持った取り組みは高い評価をしています。ご家族との関係性も良好としながらも支援計画作成や機関誌の発行を通して意見交換が行えるように配慮してきました。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会

4/16. 5/13. 6/28. 7/9. 8/6. 9/4. 10/8. 11/12. 12/10. 1/7. 2/7. 3/19

毎月実施。学習的な委員会の開催と身体拘束の適正化としての議論を行っている。セルフチェックとゆめくる独自で実施している不適切対応チェックシートの開催を年間2度。丁寧な聞き取りも含めて対応してきた。

(2) 感染症対策委員会

年間4回を目途に企画し予定通り開催できた。日々の感染対策の徹底と万が一の場合の想定を加味して現場職員への協力を要請した。又、研修については嘔吐物の処理等の研修及び訓練とBCPの内容に沿った机上訓練も企画し、繰り返しの確認を怠らなかった。

(3) 安全管理委員会

ヒヤリハット報告の周知確認が主となり。事業所内の点検確認や備蓄品の管理他、避難訓練の企画実施。研修等においては北署屯田出張所の消防士のご協力をいただき救急救命の研修を開催している。

(4) 個別支援会議（毎月）、職員会議（毎月）、フロア会議等（毎月）

利用者退勤後の中で、時間を工夫して開催する。意見交換も活発で一定の評価もできるが、超過勤務等の時間が多くなってしまう実績があるため課題も多い。そのため、個別支援・意思決定支援会議については11月より、日中に参加人数を限定して実施することで超過勤務の機会を減少させている。

(5) 研修参加

①外部研修

○6/10	接遇マナー研修（大林）	1名
○6/21	福祉専門職のためのキャリアアップ研修初任者コース（岩崎・成田）	2名
○9/10	R6 苦情・クレーム対応セミナー（柴田）	1名
○9/26～27	福祉専門職のためのキャリアアップ研修中堅職員編（小倉）	1名
○9/27	R6 北海道知的障がい関係支援員研修（高倉）	1名
○10/11	災害対策研修会（森島）	1名
○11/6	全道知的障がい関係職員研究大会（木村）	1名
○11/21	権利擁護セミナー（瀬野）	1名
○2/4	重度化高齢化に対する取り組み（高倉）	1名

②内部研修

○5/30	制度研修・意思決定支援について（ゆめきた合同）
○7/23	身体拘束適正化について
○11/7	意思の確認が難しい方へのアプローチ方法を学ぶ（ゆめきた・くれあ合同）
○1/30	権利擁護・虐待防止について（意識を深める）（ゆめきた合同）

2024（令和6）年度事業報告 ゆめきた

（生活介護）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

日中活動が充実した時間となるよう、アセスメントの時間をより重要視してきました。事業所が少人数である利点を生かし、きめ細かなサービスの提供を行えた印象です。サビ管を中心に会議や打ち合わせ等に時間をかけ、実践と研修研鑽にも努めました。職員集団としての連携とチームワークの構築に一定の成果は感じています。利用者の方々には SST 研修を企画し、振り返りと今後の方向を確認しながら進めました。共感と同意が取り易くなり自信がついてきた印象もあります。彼らの意思を大切に次年度に向けた事業運営と、地域の社会資源としての事業所の役割を踏まえ、報告とします。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜生活介護＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1.0	ゆめくる兼務
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	
生活支援員	11	7.0		2.4	0.2	9.6	9.4	
看護職員	1				0.5		0.5	生活支援員兼務
重度支援	1			0.1			0.1	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜生活介護＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者					4	11	6	21
利用者延数					1,013	2,792	1,415	平均 19.4

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

ありません。

（2）契約解除者数

ありません。

5. 具体的な取組みの成果

（1）特色のある活動の構築

北エリアの GH 関連の寝具カバー等の洗濯業務を担当しています。担当される利用者の方々のソーシャルスキルトレーニング（SST）を用いた話し合いの場を設定してきました。繰り返し開催することでそれぞれが「人前で発表する」事で、自信となり他の方の発言に共感したり同意を得たりすることがスムーズとなりました。就労を目指す方々へのスキルアップにも繋がる位置付けとなり、継続した取り組みを続けていかなければなりません。

（2）支援力の向上

意思決定支援のサポートに対して常に研鑽を重ねてきています。意見交換や情報の共有を主とし丁寧な対応を心掛け、併せて職場環境の向上にも努力しました。当たり前の事ですが、「不適切な支援の根絶」を目指し次年度への引継ぎも必須なポイントとなります。

（3）地域社会において

社会参加への意識を高め、事業所周りの散策の際に環境美化に努めるよう配慮してきました。これからも当事業所が社会資源と位置付けされるよう鋭意努力します。保護者・ご家族様との良好な関係を維持し、積極的な意見交換等が行える雰囲気も保っていきたいと考えています。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会

4/25. 5/27. 7/3. 7/23. 8/22. 10/10. 12/13. 1/10. 2/25. 3/10

毎月実施。学習的な委員会の開催と身体拘束の適正化としての議論を行っている。セルフチェックの開催は年間2度。丁寧な聞き取りも含めて、対応してきた。

(2) 感染症委員会

5/27. 8/28. 10/30. 1/24

定期的に開催。嘔吐物の処理の研修（訓練も兼ねる）と手洗いの研修・訓練も計画通り行えた。

(3) 安全管理委員会

ヒヤリハット報告の周知確認が主となる。事業所内の点検確認や備蓄品の管理他、避難訓練の計画（北消防署からの指導）と実施を計画通りに行ってきた。

(4) 個別支援会議、職員会議他

毎月1回の実施。積極的な意見交換と情報の共有に努めてきた。小人数の事業所の利点を生かし高いチームワークの維持に努めていきたいと思います。

(5) 研修参加

①外部研修

○5/23～24 サビ管実践研修	1名
○6/10 接遇マナー研修	1名
○7/10 メンタルヘルス研修	1名
○7/10 リスクマネジメント研修	1名
○7/30～31 キャリアアップ初任者研修	1名
○8/9 看護師専門研修	1名
○8/9 経理担当者のための実務研修	1名
○8/6～7 キャリアアップリーダー研修	1名
○9/12 社会福祉施設 BCP 運用研修	1名
○9/26～27 キャリアアップ中堅研修	1名
○10/10 高齢者・障がい者の虐待防止セミナー	2名

②内部研修

○5/30 制度研修・意思決定支援について（ゆめくる合同）	
○7/23 身体拘束適正化について（ゆめくる合同）	
○8/30 ハラスメントについて	
○11/7 意思の確認が難しい方へのアプローチ方法を学ぶ（ゆめくる・くれあ合同）	
○11/20 嘔吐処理研修・訓練	
○2/10 手洗いに関する研修・訓練	
○1/30 権利擁護・虐待防止について（意識を深める）	（ゆめくる合同）

2024（令和6）年度事業報告 地域支援センターくれあ （共同生活援助）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

令和6年度は、利用者様にとってグループホームが「安心して自分らしく生活できる場所」であることを、全支援者が改めて共通の認識として持ち、日々の支援に取り組んできました。安心できる生活を常に提供できるよう、利用者様一人ひとりの生活習慣を把握し、健康的で見通しの持てる生活リズムの構築とその継続に努めました。また、いつでも気軽に相談できるよう、温かく明るい環境づくりを目指しました。さらに、ご本人の意思や価値観が反映される場面をできるだけ多く設けることで、利用者様が主体的に、いきいきとした毎日を送れるよう努力してきました。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜共同生活援助＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1.0	サービス管理責任者兼務
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	管理者兼務
生活支援員	14	1.0		9.1		10.1	9.0	夜間支援従事者兼務
世話人	10			7.5		7.5	4.7	夜間支援従事者兼務
夜間支援従事者	18			18		3.6	－	生活支援員・世話人兼務
看護職員	2			0.2		0.2	0.1	訪問看護師

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜共同生活援助＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者						15	15	30
利用者延数					119	5,226	5,031	月平均 28.4

＊区分4に実績があるのは、6月より区分が4→5に変更した利用者（1名）がいたため。

4. 利用者の入退所状況

- （1）新規契約者数 1名（5月）
- （2）契約解除者数 0名

5. 具体的な取組みの成果

（1）連携の強化及びリスクマネジメントの重視

事業所内および事業所間での情報共有においては、内容に齟齬が生じないよう配慮し、確実に実施しました。簡易な情報伝達や再確認が必要な事項については、LINE WORKS（SNS）やミスヘルの伝言板を活用し、全体で統一した対応が必要な事項については、事前にリーダー会議で周知し、その後、各ホームにおいてリーダーが直接支援者へ伝達を行いました。その結果、業務の進捗状況や内容の理解度を確認でき、情報共有が円滑に行われたことで、支援者間の連携が一層密接になりました。支援者間の連携が強化された結果、令和5年度には服薬に関する事故が7件発生しましたが、令和6年度には1件となりました。服薬に関する支援マニュアル自体は大きく変更していませんが、業務を互いに確認し合える環境が整った成果だと感じています。この結果、利用者様はこれまで以上に安全で安心した暮らしを実現できるようになりました。

（2）根拠ある支援力の向上

利用者様の生活スタイルや特徴的な行動、意志決定に関わる価値観等を再アセスメントし、個別支援会議を通じて情報共有と支援方針の統一を図りました。また、支援で見えてくる行動や感情にも常に注意を払い、決められた支援方法にとらわれず柔軟な対応ができたと感じています。更に、支援者が情報共有することで、支援者個々の意識や考え方が向上し、支援の質が高まりました。

（3）家族に対して

行事や通院、またはご本人の生活状況や帰省に関する事項については、都度担当支援者から電話にて報告・相談を行ってきました。ご家族からは、日常の些細な様子であっても事業所からの連絡

を受けると「安心する」といった声が聞かれています。今後も情報提供を定期的に行い、ご家族の安心感につながるよう、引き続き継続していきたいと考えています。

(4) 地域社会において

地域の住民の皆様に対しては、日頃から丁寧なあいさつを心掛け、町内の決まりごとを厳守するよう努めてきました。また、利用者様の日常品の購入に際しては、近隣のスーパーを利用し、利用者様が地域生活を実感できるようにしています。これにより、地域住民の皆様にとっても、障がいがあっても当たり前で生活する利用者様と直接かかわる機会となっていると感じています。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

- (1) 安全衛生管理委員会（毎月実施 リスクマネジメント研修 1 回実施）
- (2) 感染症対策／保健委員会（年 4 回実施 併せて内部研修と訓練を 2 回実施）
- (3) 権利擁護・虐待防止／身体拘束等適正化委員会委員会（毎月実施 内部研修年 2 回実施）
- (4) ホーム会議／個別支援会議（毎月実施）
- (5) リーダー会議（毎月実施）
- (6) 研修参加
 - ①外部研修
 - 虐待防止研修
 - 事故発生時の対応研修
 - グループホーム等スタッフ研修
 - ②内部研修
 - 権利擁護・虐待防止研修 5/23
 - 感染症対策研修（①食中毒の予防 8/18 ②感染症予防・嘔吐処理 1/16）
 - 不適切対応研修 10/17
 - 意思決定支援研修 11/7
 - ハラスメント研修 11/11
 - 事故発生時の対応伝達研修 11/21

2024（令和6）年度事業報告 つきがた友朋の丘 （施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

令和6年度は、事業所を利用されるご本人の気持ちをしっかりと汲み取り、日々の活動や余暇に反映してきました。また、地元札幌での生活を希望される方3名の移行を行っています。さらに、加齢により変化してきた利用者の身体機能を考慮し、エアコンの増設やトイレの改修工事を実施し快適な生活環境の整備も行っています。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜施設入所支援＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1		0.9			1.0	1.0	ほたる兼務
サービス管理責任者	2	1.0			0.1	1.1	1.0	
生活支援員	42	26.0	0.8	7.0	0.7	34.5	32.6	
看護職員	1			0.9		0.9	0.1	
その他	1				0.3	0.3		預り金担当職員

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜施設入所支援＞

※短期入所、日中一時支援の実績は無し。

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者					1	4	34	39
利用者延数					365	1,378	12,199	平均 38.2

＜生活介護＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者			2	2	4	5	36	49
利用者延数			513	520	1,044	1,292	9,520	平均 47.9

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

6/1 Y.K氏 地域支援センターほたるより

（2）契約解除者数

4/13 I.T氏 札北荘へ

6/20 S.H氏 地域支援センターのんの（日中は菊水ワークセンター生活介護）

1/6 M.H氏 地域支援センターすてら（日中は白石かがやき園生活介護）

5. 具体的な取組みの成果

（1）充実した日中活動とリハビリ活動

日中活動はできるだけご本人の好きなことや得意なことに視点を置き提供しています。また、身体機能の維持、向上に繋がる活動を多く取り入れています。さらに月に1回町立病院の理学療法士から実践の講習を受け、リハビリ活動に生かしています。

（2）虐待防止・権利擁護へのさらなる推進と向上

内外の研修に積極的に参加し学習の機会を設定しています。定期的な虐待防止委員会を開催する中、気になる事案（身体拘束や頓服の服用について）について協議し職員間で共有しています。

（3）食生活からの健康管理

栄養士による栄養マネジメントを実施し個別の摂取カロリーを設定しています。また、必要な方にはヨーグルトなどの捕食を提供し自然な排泄の促しを行っています。食材の高騰により献立に苦慮する中、食の楽しみと満足感のある食事の提供を心がけています。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 権利擁護・虐待防止/身体拘束適正化委員会

虐待防止小委員会を4月・7月・8月・11月・2月に実施。あわせて身体拘束適正化委員会を行い6名の利用者を解除し1名を追加している。また、頓服薬の服用について個別のガイドラインを作成し服用タイミングを統一化している。7月、2月は虐待防止セルフチェックの集計、考察を確認

(2) 安全管理委員会

ヒヤリハット及び事故の整理、分析を行い事故防止に繋げています。また、避難誘導訓練の実施、施設内点検、緊急時の対応、災害時備蓄の確認、交通安全に関する啓発をおこなっています。

(3) 感染症対策・保健衛生委員会

感染症に関する研修、訓練の実施。日常のバイタルチェック（検温、血圧測定、体重測定など）通院、服薬の管理を行い医療との連携を図っています。

(4) 給食委員会

隔月実施している。栄養士を中心に委託業者と委員会メンバーにて検食簿からの意見集約を行う。今年度は、検食形態の変更（一口から一食）、検食簿の内容変更を行っています。

(5) 職員会議

毎月の職員会議の他に男性棟、樹温棟、女性棟、日中支援会議を実施し全体周知事項、サービス提供に関する会議を実施しています。

(6) 研修参加

①外部研修

○6/17.18	全道施設長セミナー	1名
○8/6	特定給食施設等従事者研修会	1名
○9/27	意思決定支援について学ぶ	1名
○10/11	福祉施設における災害対策	1名
○10/29	施設長・管理者権利擁護特別研修	1名
○12/6	ダウン症の高齢化に伴う支援、自閉症スペクトラム症理解と意思決定支援の在り方について学ぶ	1名
○11/21.22	障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成講座	1名
○11/21	権利擁護セミナー「思いに寄り添う支援」	1名
○12/15.20	北海道相談支援従事者研修	1名
○2/22	虐待防止・権利擁護指導者養成講座	2名
○2/17.18	全道施設長研修会・災害対策研修会	1名

②内部研修

○4/30	新任職員研修会	1名
○6/3	メンター研修会	1名
○7/12	新任フォローアップ研修会	1名
○7/17	SST研修「危険やトラブルから身を守る」	1名
○9/20	事例発表会「事故発生時の対応について」	1名
○10/22	新任職員フォローアップ研修会	1名

※ 虐待防止研修、感染症対研修については職員会議後 e ラーニングの視聴及び訓練を実施。

2024（令和6）年度事業報告 地域支援センターほたる （共同生活援助）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

令和6年度は、事業所を利用されるご本人の望まれる暮らしの実現に向け、2か所で運営してきたGHを1か所に統合しサポート体制を整えてきました。平日はしっかりと働きたい、休みの日は外出や買い物、趣味を楽しみたい、健康でありたい、地元の札幌に帰って暮らしたい。こうしたご本人の希望にしっかりと耳を傾けお手伝いをさせていただきました。

また、浴室の改修工事、洗面所とトイレの設備を整え快適な生活空間の提供を行っています。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜共同生活援助＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1		0.1			0.1	1.0	友朋の丘兼務
サービス管理責任者	1		0.5			0.5	0.3	
生活支援員	4	1.0	0.5		1.2	2.7	1.5	
世話人	6				1.7	1.7	1.4	
その他	1				0.1	0.1		預り金担当職員

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜共同生活援助＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者			2	2	1	1	1	7
利用者延数			730	730	365	365	703	平均 8.9

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

なし

（2）契約解除者数

6/1 Y.K氏 友朋の丘へ（施設入所支援）

1/6 M.H氏 地域支援センターすてらへ（日中は白石かがやき園生活介護）

5. 具体的な取り組みの成果

（1）社会参加を意識した風通しの良い環境づくり

単独での日用品や嗜好品の買い物に際して助言を行い、自立を支援しています。潤いある生活の提供として焼肉会を開催し同居人同士の親睦を深めるとともに、誕生日外出や選択外出を行いました。（居酒屋、オータムフェスト、コンサート、ファイターズ試合観戦、青少年科学館等）次年度は単独で外食や居酒屋などに行っていただく支援を検討していきます。

スマートフォンの所持を希望される方に使用方法を練習し、注意事項をお伝えしています。所持を心配されるご家族とも調整を行いご本人の権利が護れるよう支援しています。

（2）バックアップ施設（友朋の丘）との連携強化

日中の活動の場である友朋の丘やベーカリー萌木とは、兼務職員を配置することで連携を強化しています。また、保育園や公共施設の清掃、衛生センター（資源選別）、町内花壇の整備等積極的な社会参加を支援しています。

（3）将来的な構想を鑑み、検討を重ねる

個別支援計画はご本人とともに立案することを基本とし、ご本人の意思を尊重し将来の生活への希望を聞き取ったうえで情報の提供を行い自己選択、自己決定の支援を行っています。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化・苦情解決委員会

毎月の職員会議に合わせて実施している。身体拘束の対象者はおらず、苦情ありません。

7月、2月は虐待防止セルフチェックの集計、考察を確認し権利侵害や虐待の芽になりうる案件について協議しています。

(2) 安全管理委員会

毎月の設備点検、事故報告、ヒヤリハット報告に基づく分析と検証。災害訓練の実施及び備蓄状況の確認も行っています。

(3) 感染症対策

感染症に関する研修、訓練の実施、特に食中毒予防を徹底しています。また、日常のバイタチェック（検温、血圧測定、体重測定など）通院、服薬の管理を行い医療との連携を図っています。

(4) 職員会議

毎月実施。利用者個々の状況確認。各委員会、係業務等の業務確認と周知。個別支援計画の確認を行っています。また、eラーニングの視聴も併せて行っています。

(5) 研修参加

①外部研修

今年度は参加できませんでした。

②内部研修

○7/17 SST研修「危険やトラブルから身を守る」

1名

○職員会議にてeラーニングの視聴。（虐待防止研修、感染症対研修含む）

2024（令和6）年度事業報告 札幌市社会自立センター （就労継続支援A型）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

札幌市社会自立センターの健全化を目標に事業を運営し、年度末をもって33年継続してきたすずらん商事との業務委託契約を解除しました。これによりクリーニング事業の立て直しが新たな課題となります。また、就労継続支援A型事業所の目的の一つである就労移行については年内で2名を送り出すことができましたが、継続できるように、これから力を入れていかなければならない内容となっています。未だ安定した健全化には至っておりませんが、年度のまとめとして報告いたします。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜就労継続支援A型＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1.0	
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	
生活支援員	6	6.0				6.0	5.0	
職業指導員	5			4.0		4.0		
賃金向上達成指導員	1	1.0				1.0	1.0	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜就労継続支援A型＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	3月契約者31
利用者延数	621	664	634	670	641	615	610	585	606	601	570	661	平均 27.8

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

12/ 3 ハローワーク 男性 1名

1 /5 ハローワーク 男性 1名

2/ 1 ハローワーク 男性 1名

（2）契約解除者数

4/15 一般就労移行 男性1名

10/31 菊水ワークセンター就労継続支援B型移行 女性1名

1/ 4 一般就労移行 男性1名

1/30 在宅移行 男性1名

5. 具体的な取組みの成果

（1）就労支援の取り組み

4月に1名、1月にもう1名が般就労に移行しました。取り組みを継続し、就労意欲の向上に努めます。

（2）環境整備と美化

開設から使用していた備品を札幌市へ報告して廃棄し、代替品を購入しました。相談室等衛生面や実用性を意識して美化を進めました。

（3）事業所運営の安定化

給付費の増額と就労支援事業の改善は概ね軌道に乗っていますが、中途の退所により稼働率が低下しました。次年度以降、新規契約者の募集を始めることが次年度の課題となります。また、給付費単価については、6か月の定着により次年度は1名分の加算の算定が可能となります。

就労支援事業は、すずらん商事との契約を解除しましたが、東札幌図書館の清掃を新たに受託することで、収支状況を安定化させることができました。次年度から代替作業となる寝具リース・クリーニングを本格化させ、収支の改善に努めます。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

- (1) 職員会議 (4/25 5/24 6/21 7/19 8/23 9/13 10/18 11/22 12/27 1/24 2/28 3/28)
- (2) ケース会議・意思決定支援会議 (4/15.23 5/13.23 6/10.12 7/8.24 8/16/26 9/11.30
10/11.23 11/13.25 12/11.24 1/8.20 2/12.28 1/8/.20 2/12.28 3/10.12)
- (3) 権利擁護・虐待防止委員会・苦情解決委員会 (4/24 7/19 1/29)
- (4) 賃金向上委員会 (5/24)
- (5) 安全衛生委員会 (4/19 5/24)

7. 研修参加

①外部研修

- 5/10 令和6年度札幌市自立支援協議会就労支援推進部会定例会 (S・T)
- 6/17～18 全道施設長セミナー (S)
- 6/21 就労系福祉サービス事業所意見交換会 (S・T)
- 8/ 5 発達障がい講座 STANDARD〈オンライン受講＋フィードバック研修〉(O・O)
- 9/27 北海道知的障がい関係支援員研修 (H)
- 11/1 全道知的障がい関係職員研究大会 (O)
- 12/6 障がいのある方の交際・結婚・子育て支援をを考えるセミナー (T)
- 12/13～15 就労支援フォーラム NIPPON (S)
- 1/30 令和6年度障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成講座伝達研修 (O)
- 2/14 2024年度からびな学習会 (T)
- 2/17～18 全道施設長研修 (S)

②内部研修

- 5/15 7/17 9/18 11/20 1/22 3/12 利用者向けS S T研修
- 4/24 権利擁護・虐待防止研修
- 6/21 感染対策(嘔吐物処理研修)
- 6/28 虐待防止・権利擁護に向けた取り組み(法人主催：事例発表会)
- 7/19 個人情報保護研修
- 8/22 意思決定支援研修
- 9/13 感染対策(嘔吐物処理実践研修)
- 11/22 労働災害防止対策(リスクマネジメント研修)
- 1/29 権利擁護・虐待防止研修(講師：白戸浩雅氏)
- 3/24 感染対策(嘔吐物処理研修)
- 3/28 感染対策(嘔吐物処理実践研修)

2024（令和6）年度事業報告 菊水ワークセンター （生活介護・就労継続B型）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

菊水ワークセンターでは、利用者支援の基本となる意思決定支援の場として個別支援会議においてご本人参加の中で、意思を出来るだけくみ取る取り組みを実施し、個別支援計画に反映させて日々の支援につなげてきました。

生活介護では令和7年度から予定している、それぞれの班体制の中でより特色が持てるように活動内容の見直しを行っています。また、就労継続B型では、委託作業の適正化を図るとともに菓子製造の効率を上げ売り上げにつなげる取り組みを実施してきました。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜生活介護＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1.0	
サービス管理責任者	1		0.5			0.5	0.5	
生活支援員	24	16.0		5.6		21.6	18.1	1.5：1体制加算
看護職員	1	1.0				1.0	1.0	
重度支援	1		0.5			0.5	0.5	サビ管兼務

＜就労継続B型＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	
生活支援員	6	4.0		1.8		5.8	6.1	6：1加算
職業指導員	3			2.1		2.1		
目標工賃達成指導員	1	1.0				1.0	1.0	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜生活介護＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31契約者				5	9	17	12	3月契約者43
利用者延数				782	2,336	3,977	2,950	平均37.3

＜就労継続B型＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	3月契約者37
利用者延数	831	878	794	859	862	803	829	791	846	783	692	810	平均36.3

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

生活介護 M.T氏 11/1、H.H氏 1/1（2名共に就労継続B型から移行）

就労継続B型 A.M氏 11/1

（2）契約解除者数

生活介護 K.W氏 5/31、J.C氏 6/4、M.K氏 2/28

就労継続B型 Y.N氏 5/31、K.T氏 9/21、M.T氏 10/31、H.H氏 12/31

5. 具体的な取組みの成果

（1）支援体制の強化

個別支援計画を意識しながら支援ができるようにご本人参加の個別支援会議・意思決定支援会議を行う前に、管理者、役職者、サビ管、リーダー、担当者にて支援課題に対して意見交換を行っている。その中で新たな気づきなども発見し、それをご本人に説明をして日々の支援につなげている。

(2) 日中活動の充実

生活介護では令和7年度から進める活動班に特色をもって支援をする体制の基盤づくりの年としている。委託作業の他、生活リハビリやアセスメントの強化による自立課題の導入、健康活動を取り組んできた。また、余暇や運動を兼ねた外活動も多く実施している。就労継続B型では委託作業の調整をここ数年行ってきたことで、利用者の細かな支援を行うことができてきている。

(3) 委託作業検討

委託作業の調整、菓子製造やポッケカフェの業務の適正化を図ってきた。清掃活動が安定してきたこともあり、今後の中でさらに拡大して行うことができる体制が整ってきた。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 権利擁護・虐待防止/身体拘束適正化小委員会

2か月に1回、定期開催している。11月には虐待疑いの事案で臨時の委員会を実施し聞き取りや札幌市への通報を行っている。札幌市からは不適切な支援との判断で今後事業所が検討した対策を行ってほしいと指示があった。この件について全体周知を行い再発防止に努めている。

(2) 安全管理委員会

事故報告、ヒヤリハット報告があったものをまとめて職員会議で報告し再発防止に努めてきた。よい取り組み(気づき)もあるものの、報告があまり上がっていない状況にあり、今後未然に防ぐ取り組みにつながることから強化していく。

(3) 感染症対策委員会

研修会としては嘔吐処理研修を実施している。防護服の着脱を含めた対応方法を確認している。6月にコロナ陽性者が8名確認されたが、感染対策を継続していく中では広がりは見られていない。

(4) 給食委員会

リクエストメニュー、セレクトメニュー、季節メニューの検討や、日々の食事内容について検食をもとに委託業者、事業所(役職者、係)が毎月1回会議を持ち話し合いを行っている。検食簿は実際の料理を写真に撮り載せることで検食の記録と合わせて検証を行うことができた。

(5) 職員会議

月に1回実施している。各担当からの報告と研修報告なども行っている。全体場で報告する機会を持つことで研修会での取り組み方にも良い効果が生まれている。

(6) 研修参加

①外部研修

- 施設長・管理者 権利擁護特別研修(10/23) ○令和6年度権利擁護セミナー(11/21)
- 障害のある方の交際・結婚・子育て支援を考えるセミナー(12/6)
- アセスメントについてより深める研修(11/5) ○令和6年度日中活動支援部会研修(12/18)
- 障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成研修(11/21・22)
- 地域生活支援モデル事業研修(12/7) ○障がい者虐待防止・権利擁護伝達研修(1/30)
- 令和6年度災害対策研修会(2/18) ○令和6年度法人後見実施機関研修(2/20)

②内部研修

実践研修や、伝達研修、グループワークを通して実施している。また、eラーニングの全体視聴なども行い学びの場を設けている。

- ハラスメント研修(5/22) ○権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化研修(5/11)
- 救命救急講習(6/8) ○リスクマネジメント・BCP研修(7/26)
- 接遇マナー・権利擁護研修(9/21) ○自己決定・意思決定支援研修(11/2)
- 嘔吐処理研修(11/9) ○感染症BCP研修(2/1)
- 札幌市集団指導研修(3/1)

③法人研修グループ企画研修

- 役職者研修(4/3) ○新任職員研修(4/19) ○メンター研修(6/3)
- 事例発表集合研修(6/28) ○新任職員フォローアップ研修(7/12) ○役職者研修(8/19)
- 事例発表集合研修(9/20) ○新任職員フォローアップ研修(10/11)
- 事例発表集合研修(12/6) ○役職者研修(2/27)

2024（令和6）年度事業報告 地域支援センターのんの・りら （共同生活援助・短期入所）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

令和6年度は楽しみと潤いのある豊かな生活を目指し、利用者さまの声を受け止め外出や季節行事などを企画・実行し満足度の高い生活となるよう取り組みました。さらにライフサポートあんりーの活用により、より個別的なニーズにも対応することができております。短期入所りらについては、月平均利用人数が昨年比10人以上増加しており、徐々にではありますがコロナ禍前までの水準に利用人数が戻りつつあります。これらと並行し、支援力向上にも努めた一年間でした。以下に今年度の取り組みをまとめ、令和6年度の事業報告をいたします。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜共同生活援助＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1.0	サビ管兼務
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	管理者兼務
生活支援員	12	1.0		5.4		6.4	6.0	
世話人	7			5.1		5.1	3.2	
夜間支援従事者	13			1.9		1.9	1.8	
看護職員	1	1.0				1.0	1.0	
重度支援	1			0.1		0.1	0.1	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜共同生活援助＞

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者				1人	3人	4人	12人	3月契約者20
利用者延数				274	1,119	1,681	4,018	平均19.7

＜短期入所＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
利用者延数	47	39	41	41	31	15	13	17	18	27	27	27	平均28.6

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

共同生活援助 女性1名(5/1)

短期入所 男性3名(5/24、10/4、2/28) 女性1名(12/13)

（2）契約解除者数

なし

5. 具体的な取り組みの成果

（1）楽しみと潤いのある豊かな生活

利用者様個別に面談し、要望を確認。また、相談室モニタリングでは生活全般の意向について確認し生活へと反映しました。丁寧に聞き取りを実施することで、新たな外出先を創出する等楽しみに直結する結果を得られております。また、あんりーの定期利用により外出頻度も増加しております。その反面、高齢化に伴う身体機能低下による転倒事故が複数回発生しております。事故発生時の状況を画像として記録し考察・分析が可能となるよう GH らいらっくへ記録カメラを設置しております。安心・安全な居住空間を目指し、記録カメラを運用しているところです。

(2) 支援者の質の向上

e ラーニングを活用し個人及び全体視聴等で学習を進めました。また、今年度は積極的に外部研修にも職員を派遣し、報告を兼ね伝達研修を実施しております。加えて感染症対策の一環として嘔吐物処理やブラックライトを使用した手洗い研修も実施。知識といった部分でその蓄積について効果的に研修等を進められておりますが、今後の課題は知識を実践へ繋げる取り組みであると考えます。

(3) 短期入所りら

令和5年度より徐々に利用条件を緩和。その効果もあり、令和6年度では大幅に利用人数が増加しております。新規契約者も4名でした。ご利用者、ご家族の要望に応えられた状況と考えます。また、令和6年度では緊急入所を1件受けております。虐待による緊急一時保護目的で3泊されております。今後も緊急を含め短期入所の要望があった際には柔軟に受け、地域の中の社会資源の一つとしてその役割を担えれば、と考えております。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 権利擁護・虐待防止委員会(小委員会年間6回 本委員会年間2回開催)

(2) 苦情解決委員会(年間4回開催)

(3) 感染症対策委員会(年間2回開催)

(4) 個別支援会議(毎月開催)

(5) 職員会議(毎月開催)

(6) 研修参加

①外部研修

- 6/17～18 全道施設長セミナー 1名
- 9/27 北海道知的障がい関係職員研修 2名
- 10/23 施設長・管理者権利擁護特別研修 1名
- 11/21 権利擁護セミナー 1名
- 1/17 グループホームスタッフ等研修 3名
- 1/30 障がい者虐待防止・権利擁護伝達研修 1名
- 2/17～18 全道施設長研修会 1名
-

②内部研修

- 5/31 虐待防止(動画視聴) 12名
- 6/25 ハラスメント研修(動画視聴) 感染症対策研修(机上訓練) 9名
- 7/31 リスクマネジメント(BCP 机上訓練含む、動画視聴) 8名
- 8/23 自己決定・意思決定支援研修(動画視聴) 職員セルフチェック考察報告 11名
- 9/30 ノロウィルスについて(動画視聴) 10名
- 10/31 嘔吐物処理研修(模擬訓練) 9名
- 11/28 意思決定支援の基本の考え方(資料) 7名
- 1/27 手洗い訓練(実地訓練 利用者含む) グループホームスタッフ等研修伝達 8名
- 2/28 職員セルフチェック考察報告 9名

③法人研修グループ企画研修

- 4/ 3 役職者研修 1名
- 6/28 虐待防止・権利擁護研修 1名
- 8/19 役職研修 1名
- 9/20 事故発生時対応研修 1名
- 12/12 意思決定支援研修 1名
- 2/27 役職研修 1名

2024（令和6）年度事業報告 白石かがやき園 （生活介護・就労継続支援B型）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

屋外活動やイベント等含め概ねコロナ前のかたちに戻った一年でした。開設後 30 年が経過し、利用者さん、ご家族の様々な状況変化が生じている中で、個別事情等に多く対応してきました。生活の場を GH 等に移す等利用場所の変更を余儀なくされた方もおりました。今後ともご本人の高齢化や体調面の変化、ご家族の事情等で利用事業所を変えざるをえない方が増えていきます。引き続き関係機関との連携含めご本人にとってより良いかたちでつないでいけるよう配慮していくと共に、もう一方の課題として利用実績数減少の歯止めについて、新規利用者さんの募集も含め考えていく必要があります。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜生活介護＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1		1.0			1.0	1.0	
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1.0	
生活支援員	32(9)	19.0		8.2		27.2	20.0	すてら兼務 0.4 あんりー兼務 0.3
看護職員	1	1.0				1.0	1.0	

＜就労継続支援B型＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
サービス管理責任者	1		0.5			0.5	0.5	
生活支援員	1		0.5			0.5	0.1	
職業指導員	1	1.0				1.0	1.0	
目標工賃達成指導員	1	1.0				1.0	1.0	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜事業種 生活介護＞

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
3/31 契約者					3	16	33	3 月契約者 52
利用者延数					910	2,906	8,362	平均 45.4

＜事業種 就労継続支援B型＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	3 月契約者
利用者延数	177	183	175	188	186	182	196	180	182	194	167	187	平均 8.2

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

HM 氏（R7.1/7 利用開始 つきがた友朋の丘より移行）

（2）契約解除者数

RS 氏（R6.6/17 契約解除）

EM 氏（R6.10/31 契約解除）

RA 氏（R6.12/19 契約解除）

MA 氏（R6.12/24 契約解除）

YK 氏（R6.12/25 契約解除）

5. 具体的な取組みの成果

(1) 「意思決定支援」にかかる取り組みを進めます。

ご本人の要望や意思確認等、取り組みは少しずつ進んでいますが、意思形成や表出支援といった点で更なる工夫や配慮が必要と思われる、今後も具体的手法等について学ぶ必要性がある段階です。

(2) 権利擁護・虐待防止への取り組みを進めます。

言葉遣い等で全体の意識の高まりを感じています。他職員の気になる点などを役職者に相談されることもあり、不適切な芽は何より早く摘むことを全体で共有したいと思います。

(3) 風通しの良い職場風土をつくるため、職員間の意思疎通を大切にします。

少しずつコミュニケーションの深まりは感じますが、若い職員が多い中で不足感は拭えません。発信と傾聴の大切さを特に意識し、チームの和が保てるよう引き続き取り組みを継続します。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 【委員会】 権利擁護/虐待防止小委員会、保健衛生委員会、安全管理委員会

権利擁護小委員会に関しては身体拘束適正化や不適切支援の確認等毎月確認、意識としても高まっています。他委員会についても及第点ですが、更なる情報提供や発信を期待したいと思います。

(2) 【会議関係】 職員会議、リーダー会議、フロア会議、パート会議

各会議は事前準備が課題となっています。限られた時間で効率的な会議となるよう資料の事前配布、議事の事前確認などを徹底し、余裕をもって質疑応答ができるようにしていく必要があります。

(3) 【研修関係】

研修機会の確保は意識してきました。支援の質を高めるため継続していきます。学んだ内容の「汎化」は工夫が必要であり、重要な内容は反復してでも一層の理解につなげたいと思います。

7. 令和6年度研修参加

(1) 外部研修

○5/29, 30、6/12, 13 行動援護従業者養成研修(はるにれの里)	2名
○6/17～18 道知協主催全道施設長セミナー	1名
○6/19～1/29 一歩先の夢ワークショップ(はるにれの里)	1名
○7/21～8/19 てんかん基礎講座(日本てんかん協会)	1名
○9/27 道知協主催関係支援員研修	1名
○9/24～26 強度行動障害支援者養成研修(実践 エンビト福祉カレッジ)	1名
○8/2～5 発達障がい講座 STANDARD(はるにれの里)	1名
○10/11 災害対策研修(道知協主催)	1名
○10/23 施設長・管理者権利擁護特別研修	2名
○11/1 全道知的障がい関係職員研修会(道知協主催)	1名
○11/21～22 障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成講座(道知協主催)	1名
○12/15 法人ジョイントセミナー(ZOOM)	1名
○12/6 障害のある方の交際・結婚・子育て支援セミナー(道知協主催)	2名
○12/7 強度行動障害を有する方が安心して暮らせる社会を目指して(はるにれの里)	1名
○1/29～30 日中支援部会全国大会(日知協主催)	1名
○2/4 重度高齢化に対する取り組み(札知協主催)	1名
○3/18, 19, 25, 26 行動援護従業者養成研修(サンシャイン総合学園)	1名

(2) 内部研修

○4/2 法人エルダー研修	3名
○6/3 法人メンター研修	3名
○6/28 権利擁護虐待防止研修	1名
○9/20 リスクマネジメント研修	1名
○12/12 意思決定支援研修	3名
○10/11 新任フォローアップ研修Ⅱ	3名
○12/12 意思決定支援研修	1名
○2/27 役職者研修	3名

2024（令和6）年度事業報告 地域支援センターすてら （共同生活援助）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

今年度から専任の管理者が配置された事で事業運営、利用者支援を間近で確認することができています。転倒による骨折や新たな疾病から入院加療を行うも疾病の改善が見られず退所された方が2名おり、適宜ご利用者のニーズに合わせて様々なサービス事業所の見学を行っています。ご家族の都合によりさらに1名が退所されており、入居者の変更が多い一年となりました。また、ご利用者、ご家族に安心・安全な暮らしを提供できるように記録カメラの導入を行っています。季節余暇を広げていく事で外出機会を増やしていますが、今後は個別のニーズに即した個別外出も広がっていきます。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜事業種 共同生活援助＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1	1.0				1.0	1	
サービス管理責任者	1	1.0				1.0	1	管理者兼務
生活支援員	8			6.1		6.1	4.6	かがやき園 0.4 兼務
世話人	7			3.0		3.0	2.9	
夜間支援従事者	15			1.8		1.8	-	
看護職員	1	1.0				1.0	1.0	
重度支援	1			0.1		0.1	0.1	

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜事業種 共同生活援助（区分あり）＞

	非該当	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
3/31 契約者				2	3	5	8	3 月契約者 18
利用者延数				712	1,300	1,621	2,579	平均 17.0

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

- 4/1 男性 1 名（在宅より）
- 1/6 男性 1 名（同法人共同生活援助より）
- 3/24 女性 1 名（在宅より体験利用のみ）

（2）契約解除者数

- 10/31 男性 1 名（高齢者施設へ）
- 12/25 女性 1 名（他法人共同生活援助へ）
- 2/28 女性 1 名（道外共同生活援助へ）

5. 具体的な取組みの成果

（1）「意思決定支援」にかかる取り組みを進めます。

支援者が積極的に意思決定支援研修に参加し、ご利用者の想いを汲み取るように周知しています。ご利用者から想いを伝える手段が少ないこと、経験が少ない事に気づいています。嗜好品を選択する、要求するという部分から進めることで意思表示をしてくれる方が増えています。

（2）権利擁護・虐待防止への取り組みを進めます。

原因不明の痣が表出することがあり、GHのみならず日中活動先の権利擁護小委員と協力して原因を追究するとともに適宜、札幌市へ報告しています。記録カメラを設置する事で不適切な支援を行っていない根拠となり、ご家族の皆さまには安心材料になっています。

(3) 関係機関との連携、情報共有を密に進めます。

かがやき園と合同研修を積極的に開催することで単体の事業所では難しい内容の研修も実施することが出来ています。また、訪問看護なども活用してGHで生活しやすい環境を整えています。居宅支援の兼務者を増やす事で余暇の拡がりもあり、意思形成の場に繋がっています。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 虐待防止小委員会（身体拘束適正化委員会含む）

身体拘束の同意が適切かを支援会議内で協議し、解除の方向で進める事ができています。年に2回のセルフチェックを行い支援の振り返りを行っています。

(2) 感染症対策小委員会

年に2回は座学、実技の研修を行いながら日常的に起こりうる可能性のある場面を想定して研修を行っています。

(3) 安全管理委員会

ヒヤリハットを取りまとめてリスクマネジメントに努めています。また、日頃の設備点検、消防訓練などを進めています。ヒヤリハットが、繰り返し生じてしまう事象に対して具体的な対策を講じるように意識付けを行っています。

(4) 研修参加

①外部研修

○全道施設長セミナー	6/17~6/18	1名
○行動援護従事者研修	8/21~22 8/28~29	1名
○全道施設長セミナー	9/3~9/4	1名
○権利擁護特別研修	10/23	1名
○全道知的障がい関係職員研究大会	11/1	1名
○権利擁護セミナー	11/21	1名
○グループホームスタッフ研修会	1/17	2名
○全道施設長研修	2/17~18	1名
○災害対策研修会	2/18	1名

②内部研修

○権利擁護・虐待防止研修	5/15	全員
○権利擁護・虐待防止研修（法人研修）	6/28	2名
○感染症対策研修（座学・実践）	7/3	全員
○ハラスメント研修	7/26	全員
○マナー研修（かがやき園主催）	8/3	1名
○AED研修（かがやき園主催）	8/10	3名
○意思決定芯（法人研修）	8/19	1名
○事故発生時の対応（法人研修）	9/20	2名
○意思決定支援（法人研修）	12/12	1名
○意思決定支援（かがやき園主催）	12/14	3名
○ケーススタディ発表（かがやき園合同）	1/11	4名
○感染症対策研修（座学、実践）	2/6	全員
○意思決定支援	2/20	全員

2024（令和6）年度事業報告 相談室あいりす （指定特定相談支援・指定一般相談支援）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

当年度は管理者の変更と退職者が1名おり、相談支援専門員5名（1名管理者と兼務）と相談員1名の6名体制となり1名減のスタートとなりました。相談員は相談支援従事者初任者研修を受講し、10月からは相談支援専門員として業務に従事しています。職員の異動はなく、担当変更も一部であったため年間通してスムーズに業務を送っていますが、本人や家族の高齢化を理由としたGH等への入居希望は年々増えており、緊急対応が必要な状況も多くなってきています。また、コロナ禍で減少していた行動援護、移動支援の利用希望も増えてきており、楽しみや運動の機会の確保に向けた取り組みにも力を入れています。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

<指定特定相談支援>

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1		1.0			1.0	1	兼務可
相談支援専門員	5	4.0	1.0			5.0	1	配置基準1名以上

<指定一般相談支援>

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1		1.0			1.0	1	兼務可
相談支援専門員 （地域移行支援・地域定着支援担当者）	5	4.0	1.0			5.0	1	配置基準1名以上

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

<指定特定相談支援（区分別）>

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3/31 契約者	15	1	14	30	58	110	179	407

<指定特定相談支援（月別）>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
本計画	43	24	23	25	26	32	36	34	30	39	43	33	388 延人
モニタリング	96	77	119	103	74	111	89	71	101	89	65	100	1,095 延人
合計	139	101	142	128	100	143	125	105	131	128	108	133	1,483 延人

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

- ①5/1 菊水ワークセンター（生活介護） ②5/1 菊水ワークセンター（生活介護）
③7/11 ゆめくる（生活介護） ④2/21 白石かがやき園（生活介護）

（2）契約解除者数

- ①5/8 ゆめくる（生活介護） ②5/31 札北荘（施設入所） ③6/19 白石かがやき園（就労B型）
④7/15 ゆめいろ（生活介護） ⑤7/22 外部利用者 ⑥9/21 菊水ワークセンター（就労B型）
⑦10/31 白石かがやき園（生活介護） ⑧12/25 白石かがやき園（生活介護）
⑨12/31 白石かがやき園（生活介護） ⑩2/27 札北荘（施設入所）
⑪2/28 菊水ワークセンター（生活介護） ⑫3/24 ゆめいろ（生活介護）

5. 具体的な取組みの成果

- (1) 令和6年度報酬改定に伴い、法令に合わせた事業運営へ見直しを行っております。機能強化算定に当たり追加された自立支援協議会等への参画についても経過措置の期限内に白石区自立支援協議会への参画が来ています。また、主任相談支援専門員加算もⅡからⅠが算定可能になり、収入面でも若干の上昇が見込める状況になりました。
- (2) 計画相談の充実に向けて、計画の自己評価の実施やアセスメント様式の見直しなどの取り組みを行っています。また、意思決定支援への取り組みとして、これまで以上に本人との関わりやアセスメントを充実させています。
- (3) 親亡き後の生活について、後見人や居住場所の確保への取り組みを進めています。一方で必要性がありながらも様々な障壁で進まない状況も多く、利用者が困らない、安心して暮らせる環境に向けて関係機関や家族等と向き合っていく必要性は引き続き課題として捉えています。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

- (1) 職員会議 毎月第4金曜日（午前）実施
4/25 5/31 6/28 7/26 9/27 10/25 11/29 12/27 1/31 3/28
※8月と2月は感染症対策により中止
- (2) ケース会議 毎週木曜日（午後）実施
概ね毎週実施できています。
- (3) 各種委員会
 - a. 権利擁護・虐待防止委員会
 - ①6月28日（動画視聴・セルフチェック実施） ②8月21日（虐待防止委員会）
 - ③10月25日（虐待防止委員会の周知） ④12月27日（セルフチェック実施）
 - ⑤1月9日（セルフチェックの考察） ⑥1月29日（権利擁護に繋がる社会資源の活用について）
 - b. ハラスメント防止委員会
 - ①10月25日（カスタマーハラスメントについて）
 - c. 保健衛生委員会
 - ①5月31日（BCP確認と見直し） ②2月13日（感染症対策訓練の実施）
 - d. 防災対応委員会
 - ①6月26日（BCP確認と見直し） ②6月10日（自衛消防訓練） ③10月28日（自衛消防訓練）
 - ※消防訓練は菊水ワークセンターと合同で実施
- (4) 研修参加
 - ①外部研修

6月17日～18日	全道施設長セミナー	1名参加
8月9日	意思決定支援のプロセスから考える支援会議	1名参加
9月20日	白石区自立支援協議会 全体会	1名参加
10月29日	災害に備えた地域での支え合い研修会（ワンオール主催）	1名参加
1月17日	人材育成とスキルアップ研修（ワンオール主催）	1名参加
1月30日	札幌市福祉協会 障がい者虐待防止・権利擁護伝達研修	1名参加
2月17日～18日	全道施設長研修会	1名参加
	相談支援従事者研修（初任者研修）	1名参加
 - ②内部研修

	サポーターズカレッジ eラーニング視聴（随時）	全職員
6月19日	障がい者虐待防止研修（市社協）ユーチューブ配信視聴	全職員

2024（令和6）年度事業報告 ライフサポートあんりー （居宅介護・重度訪問介護・行動援護）

1. 2024（令和6）年度事業報告にあたって

令和6年度は、これまで地域支援センターえがお・地域支援センターうららの兼務職員が中心のサービスだったところを、7月以降6名の常勤職員を配置し事業の拡大を図っております。秋以降、更なる新規契約を希望されているご利用者も多くいらっしゃいましたが、常勤職員の拡充が進まず、打ち切らせていただいたことが課題として残りました。今年度の反省と次年度以降の展望を含めて事業報告とさせていただきます。

2. 職員数（令和7年3月31日現在）

＜居宅介護・重度訪問介護・行動援護＞

職 種	人数	常勤		非常勤		常勤 換算	配置 基準	備考
		専従	兼務	専従	兼務			
管理者	1		0.2			1.0	1.0	ゆめいろ兼務4名
サービス管理責任者	2		0.4			0.4	2.5	かがやき園兼務1名
従業者	5	4.5	1.6	1.4		7.5		GH兼務3名

3. 利用実績延人数（令和6年度実績）

＜居宅介護・重度訪問介護・行動援護＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	3月契約者
居宅介護	32	30	27	42	11	5	9	8	10	10			
行動援護	33	46	45	47	42	93	110	113	103	117			127人

4. 利用者の入退所状況

（1）新規契約者数

78名

（2）契約解除者数

2名

5. 具体的な取組みの成果

（1）事業拡大と新規契約者の獲得

昨年度は、地域支援センターえがお・地域支援センターうららのご利用者を中心にサービスを提供してきましたが、今年度は8月以降、白石エリアも含む在宅のご利用者のサービスも開始し、昨年度比約3.5倍の収入増となっています。

しかしながら、常勤職員の拡充が難しい状態となり、更なるサービス提供の増加にはつながりませんでした。

従業者の確保は継続した課題であるとともに、各事業所との連携や兼務者の増員を図り、サービスの提供を増やすことで利用者の余暇の充実と安定した事業運営に繋がりたいと思います。

（2）祉有償運送について

前年度課題として挙げられていた福祉有償運送の再開ですが、今年度においても再開には繋げることはできませんでした。燃料費の高騰は経営に大きな影響を受けますが、事務手続きが煩雑なことを勘案すると公共の交通機関及びタクシー券の利用を推進するのが妥当と考えられます。

6. 設置された委員会・会議・研修の運営状況

(1) 権利擁護・虐待防止委員会

小委員会報告 4/22・5/27・6/24・7/29・8/26・9/30・10/28・11/25・12/23・1/27・2/17・3/24

本委員会参加 8/21・2/19

(2) 苦情解決委員会

職員会議報告 4/22・5/27・6/24・7/29・8/26・9/30・10/28・11/25・12/23・1/27・2/17・3/24

実績なし

(3) 安全管理委員会

職員会議報告 4/22・5/27・6/24・7/29・8/26・9/30・10/28・11/25・12/23・1/27・2/17・3/24

事故の実績はなし

(4) ハラスメント委員会

職員会議報告 4/22・5/27・6/24・7/29・8/26・9/30・10/28・11/25・12/23・1/27・2/17・3/24

(5) 感染症対策委員会

研修・訓練 10/28・2/17

(6) 研修参加

① 外部研修

○ 8/10 行動援護研修人材育成モデル 基礎研修 2名

○ 2/17、18 全道施設長研修 1名

② 内部研修

○ 1/22 SST 研修 外部講師 菊池洋子氏 1名

○ 10/28、2/17 感染症対策研修・嘔吐処理訓練